

其時を先こし村々も、出合を搦りて以て獲て  
て之れの中へ母を衣を畏れ若くは中へ出不出合  
とのハ曲事云々 作月丸の中へ不審  
との来りぬ悪黨しりの堂社山林にあまり  
居ると見出しぬ名を兼中の中へそのお該  
くと加々めを以て而して注進の中へおれ上を  
取子より江戸に連り刻旅路を入用  
而を新所へお出進諸事入用百姓不致

迷惑の極に從

所々儀様之衣少く由を得を云公自執りてや做  
不おれぬ何方返もお志すひ落着訓 功  
搦り取子之仕に見進之字通之穴落お致ぬり  
後日市字、出ぬ先急方市装之衣控旨是亦  
衣畏れ兼百姓衣不及中、出ぬ山伏の人虚を借  
証たぬと様多乞食非人盗人若と仕又を  
同類も言く百常に致給ぬ怪ぬぬもぬぬり

下中上の事

○一 五々不々名主百姓ノ下盗人入公ノ雜物妻細ニ  
書月子速淫進ニ中上の能雜物不盗カハトモ  
その中上の能付中中勿論ニ元々の為ニ以テ  
親類縁者好月々ノの先を遠ニ取テ中上の事  
○一 盗人ノ居又去盗まきハ雜物見出テ一々居  
有ハ公ノ名主ハ人組立舎治候仕テ中上の能  
何捨ケ候ものト来公大疎略ニ仕居云云

○一 盗人ノ欠落ハ致ル所ニ雜物紛失  
致ル者不及中名主ハ人組曲事ニ云  
作付ル事

○一 男女より欠落その中系以テ押並マ速  
テ中上の物先ハ不接ハ中居者者子速  
寄合味ハ中上得中然テ中上の致  
何ヤ一々その志不及中者一夜ノ宿モ  
貸中居云云親類縁者好月々ノ他不ハ致